

歯周病治療の糖尿病への効果

歯周病は、歯の周囲のハグキなどの組織に細菌が感染して起こる慢性的な感染症です。歯周病は以前から、糖尿病の合併症の一つと言われてきました。

歯周病菌の死骸が「内毒素」と呼ばれる多量の毒素をまき散らすことが、血糖値にも悪影響を及ぼします。血液中の内毒素は、脂肪組織や肝臓からのTNF- α (炎症性サイトカイン) の産生を強力に押し進めます。TNF- α は、血液中の糖分の取り込みを抑える働きもあるため、血糖値を下げるホルモン (インスリン) の働きを邪魔してしまうのです。

インスリンの働きが悪くなると、血糖値が下がりにくくなります。つまり、歯周病も肥満も、TNF- α の分泌を活発にすることで血糖値のコントロールを悪化させ、結果的に糖尿病の発症につながる可能性があると考えられるのです。

歯周病治療の糖尿病への効果

最近の研究では、血管内の余分なブドウ糖が、赤血球のヘモグロビンと結合して生成されるHbA1c(糖化ヘモグロビン) の数値が、歯周ポケットを清掃してプラークコントロールを行った場合、平均5～6%低下させることが出来た。という報告があり、これは合併症の発症率を20～25%抑えることが可能だということです。

また歯周病を合併した糖尿病の患者さんに、抗菌薬を用いた歯周病治療を行ったところ、血液中のTNF- α 濃度が低下するだけでなく、血糖値のコントロール状態を示すHbA1c(糖化ヘモグロビン) 値も改善するという結果が得られています。